

平成30年度

大阪府のSDGsに関する取組み

平成31年 3月29日 大阪府

目次

1. 普及啓発活動	・・・	2
2. 部局の主体的取組み	・・・	18
3. ステークホルダーとの連携	・・・	32
4. 部局ヒアリング	・・・	36
5. 市町村へのはたらきかけ	・・・	38
6. 先進自治体ヒアリング	・・・	42
7. 有識者ヒアリング	・・・	44
8. SDGs評価指標	・・・	49

1. 普及啓発活動

◆普及啓発活動

- 勉強会の開催（平成30年5～7月に計3回開催。）
 - ・庁内及び市町村職員向けに開催。
- 市町村ブロック会議での働きかけ（平成30年7～8月、1月～2月）
 - ・計8回の会議において、市町村企画担当課長向けにSDGsの取組み促進
- 府民向けの啓発活動
 - ・FC大阪と連携し「大阪府 SDGsスペシャルマッチ」の開催
(平成30年7月、9月、11月、3月、計4回開催)
 - ・大阪大学と連携し「大阪大学とあそぼう」におけるブース出展（平成30年11月）
 - ・その他、部局やステークホルダーの開催するイベント等においても啓発活動を実施。
- 府民SDGs認知度調査の実施（平成30年11月）



2025年以降に社会の中心となる若者及び現役世代に対する啓発

庁内・市町村向け勉強会の概要①

第1回 SDGsとは (5/17)

【JICA関西 西野所長】

第2回 わたしたちのまちにとってのSDGs (6/13)

【法政大学 川久保准教授】

第3回 SDGs達成をめざす事業推進のありかた～柔軟で自由な発想で～ (7/12) 【慶應義塾大学 蟹江教授】

○各回100名程度が参加。＜参加者（うち市町村）＞第1回:126名(27),第2回:112名(21)第3回:97名 (21)

○勉強会の参加者の85%が、SDGsに対する意識や取り組み姿勢が変化。

○勉強会参加者の関心の高いSDGsのゴールは、「3」、「8」、「9」、「11」、「17」。

3. すべての人に健康と福祉を、8. 働きがいも経済成長も、9. 産業と技術革新の基盤をつくろう、11. 住み続けられるまちづくりを、17. パートナーシップで目標を達成しよう

◆勉強会で明らかになったSDGs推進のポイント

○SDGsは世界共通の言語。取組みに関連するゴールのロゴをHPに掲載することで、世界に向けたPRになる。

○経済、社会、環境の統合による課題解決と新しい価値の創造。

○SDGsにより、横串の視点での施策検討を促し、重点施策と他の施策の関連を可視化することでより効率的な行政運営が図れる。

○バックカスティングの発想であること。多様なアクターの協働・創意工夫なくして実現できない野心的目標。

※バックカスティング：未来のある時点で目標を設定しておき、そこから振り返って現在すべきことを考える方法。

○SDGsは、ルールを決めた必達目標ではなく、各主体がめざすべき目標を作るもの。

○実施メカニズムや法的拘束力がなく、各主体が自由に作り上げていくものであること。

○民間企業、市町村等ステークホルダーとの連携促進。

庁内・市町村向け勉強会の概要②

◆アンケート結果概要

○勉強会の満足度（3回合計）

	全体	府職員	市町村職員
大変満足	39%	39%	40%
やや満足	50%	51%	46%
どちらでもない	7%	5%	11%
やや不満	1%	1%	1%
大変不満	0%	0%	0%
未回答	4%	4%	2%

○勉強会参加を通じたSDGsに対する意識・取り組み姿勢の変化の有無（第3回勉強会アンケート）

	全体	府職員	市町村職員
有	84%	87%	76%
無	13%	10%	20%
未回答	2%	1%	4%

○関心のあるSDGsのゴール（3回合計、複数回答可能）

	合計		
	全体	府職員	市町村
1. 貧困をなくそう	51	39	12
2. 飢餓をゼロ	23	19	4
3. すべての人に健康と福祉を	101	74	27
4. 質の高い教育をみんなに	57	33	24
5. ジェンダー平等を実現しよう	36	28	8
6. 安全な水とトイレを世界中に	31	24	7
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに	55	41	14
8. 働きがいも経済成長も	83	58	24
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	70	55	15
10. 人や国の不平等をなくそう	43	38	5
11. 住み続けられるまちづくりを	120	71	48
12. つくる責任 つかう責任	35	27	8
13. 気候変動に具体的な対策を	44	35	9
14. 海の豊かさを守ろう	42	35	7
15. 陸の豊かさも守ろう	34	24	10
16. 平和と公正をすべての人に	39	32	7
17. パートナリシップで 目標を達成しよう	73	49	23

庁内・市町村向け勉強会（第1回：5/17）

- 場所：国民会館12階・大ホール
- 出席：合計126人（府庁職員96名、市町村職員30名）

「SDGsとは何か」

【JICA関西 西野所長】

【講師発言ポイント】

- 関西は人と人の距離が近く、SDGsの核ともいえる「パートナーシップ」が進みやすい土壌あり。「三方よし」という考え方はSDGsに通じる。
- 府民・市民への浸透では、シンポジウムや展示会等の大きなイベントはかなり効果がある。何か、個別具体のテーマに紐付けて普及浸透を図っていくことも一つ。
- 組織としてSDGsの取組み指針を策定する際は、得意な分野・強みをどのように活かすかという発想が重要と考える。正直走りながら考えるしかない。
- SDGsダッシュボードからの日本の課題としては、教育・経済・雇用・強靱なインフラ・技術革新において高評価であり、ジェンダー・生産消費形態・気候変動等課題があり、再生エネの割合など個別に課題を見ていく必要がある。
- SDGs推進における自治体レベルでの取組みとしては、「義務的・包括的」には、国の指針を受けて自治体行政の責務として推進するSDGs、「自主的・選択的」には、それぞれの自治体が固有の条件を踏まえて推進するSDGsがり、後者を大いに進めていくことがSDGsにおいて求められている。

庁内・市町村向け勉強会（第2回：6/13）

- 場所：プリムローズ2階・鳳凰（東）
- 出席：合計**112**人（府庁職員等84名、市町村職員28名）

「わたしたちのまちにとってのSDGs」

【法政大学 川久保准教授】

【講師発言ポイント】

- SDGsは17のゴール、169のターゲットから構成され、その進捗状況を計測する232のインディケータ（指標）が提案されている。インディケータを活用して取組みをフォローアップすることが重要。
- 「経済成長の追求」「環境の保全」「社会の健全な発展」の三者の統合的取組みが重要。
- SDGsは最初に目標を設定し、各国が達成状況を報告し、各主体が固有の条件に応じて実施体制を構築する仕組み。
- 自治体がSDGsに取り組むメリットとしては、自治体固有の背景を踏まえた独自性のあるまちづくりの推進、経済、社会、環境政策の統合による課題解決と新しい価値の創造、自治体内や内外のパートナーシップの推進と成功事例の共有という事がある。
- SDGsは、ゴールに沿った自治体の現状を把握することで、強みを認識してより伸長したり、弱点を把握して克服するなどの意義がある。SDGsの17個のゴールを全て網羅する必要はなく、強みを伸ばす、弱点を克服するという観点で、ターゲットを絞った取組みを進めていくことが重要。
- SDGsをどのようにローカライズして、自治体ごとに当てはめるかは非常に難しい問題。SDGsの名のもと、全自治体を同じ指標で画一的に評価して順位づけしてしまうことはしてほしくない。SDGsは、あくまで、住んでいる地域を良くするためのツールとして活用することに意義がある。
- SDGsは世界共通の言語。自治体の取組み内容を整理して、取組みに関連するゴールのロゴをHPなどに掲載して社会発信することで、世界に向けたPRになる。

庁内・市町村向け勉強会（第3回：7/12）

- 場所：プリムローズ2階・鳳凰（東）
- 出席：合計 97 名（府庁職員等 72 名、市町村職員 23 名）

「SDGs達成をめざす事業推進のありかた～柔軟で自由な発想で～」

【慶應義塾大学 蟹江教授】

【講師発言ポイント】

○SDGsのポイント

- ・世界の共通言語である ・バックキャストिंगの発想である。
- ・実施メカニズムや法的拘束力がなく、各主体が自由に作り上げていくものである。
- ・ルールを決めた必達目標ではなく、目指すべき目標を作ることが大切となってくる。
- ・包括的な目標であり、芋づる式に各目標が有機的につながっている。
- ・未来基準で測る新しいものさしとして、ビジョンの目標にどう近づいていくかを達成度合いで測るものである。
- ・自律的に分散しつつ協調して自分事として進めるものである。

○個々の施策をSDGsと紐付けることで、個々の施策が世界レベルの目標達成につながっていることを認識し、市民の「誇り」「やる気」につながる。また、世界の共通言語として、他の自治体、企業、世界の国々といった異なるステークホルダーとの連携・協働につながる。

○SDGsにより横串の視点での施策検討を促し、重点施策と他の施策の関連を可視化することで財政の効率化が図れるとともに、個々の施策をSDGsといった国際目標と結びつけることで、従来進みにくかった施策（ジェンダーや食ロス等）が推進しやすくなり、サステナブルな方向に施策を誘導できる。

○将来のあり方から翻った活動により、変化の多い時代のよりどころとなる。

<概要>

○SDGsを市町村にも普及するため、平成30年7月より市町村ブロック会議に参加し、SDGsの概要や国の動向、大阪府の取組み状況を説明。

(合計8回参加(4ブロック×2)、42市町村の企画担当者向けに説明)

<市町村からの主な意見>

○SDGsの理念は理解できる。

○すぐに総合計画等に反映させるべきと考えるが、上司の理解が足りていない。部局間での温度差もある。

○他府県の先進的自治体の取組み事例等がないと何をすればよいかわからない。

○民間企業等のステークホルダーと連携していくには、どのように進めていけばよいかわからない。

○新聞報道等からSDGsの世間での盛り上がりを感じるが、行政として何かから手を付けてよいか悩んでいる

市町村ブロック会議（夏）

第1回北河内地域ブロック会議（平成30年7月5日（木））

- 場所：守口市役所 4階北側 行政会議室
- メンバー：北河内地域7市 企画（地方分権）担当課長

第1回豊能・三島地域ブロック会議（平成30年7月19日（木））

- 場所：豊中市役所 別館 3階研修室
- メンバー：豊能・三島地域7市3町 企画（地方分権）担当課長

第1回泉州地域ブロック会議（平成30年8月7日（火））

- 場所：貝塚市市民福祉センター 4階会議室
- メンバー泉州地域9市4町 企画（地方分権）担当課長

第1回中・南河内地域ブロック会議（平成30年8月9日（木））

- 場所：松原市役所 8階 大会議室B
- メンバー：中・南河内地域9市2町1村 企画（地方分権）担当課長

大阪府よりSDGsの概要や国の動向、大阪府の取組み状況を説明

（市町村からの意見）

- ・SDGsの理念は理解できるが、各市町村で推進するにあたり、国や大阪府から補助があるのか。
- ・すぐに総合計画等に反映させるべきと考えるが、上司の理解が足りていない。部局間での温度差もある。
- ・他府県の先進的自治体の取組み事例等がないと何をすればよいかわからない。
- ・民間企業等のステークホルダーと連携していくには、どのように進めていけばよいかわからない。

市町村ブロック会議（冬）

第2回豊能・三島地域ブロック会議（平成31年1月8日（火））

- 大阪府三島府民センター4階 第1会議室
- メンバー：豊能・三島地域7市3町 企画（地方分権）担当課長

第2回泉州地域ブロック会議（平成31年1月10日（木））

- 場所：泉大津市役所3階 大会議室
- メンバー：泉州地域9市4町 企画（地方分権）担当課長

第2回北河内地域ブロック会議（平成31年1月15日（火））

- 場所：大阪府北河内府民センター1階 大会議室
- メンバー：北河内地域7市 企画（地方分権）担当課長

第2回中河内・南河内地域ブロック会議（平成31年2月6日（水））

- 場所：松原市役所8階 801会議室
- メンバー：中・南河内地域9市2町1村 企画（地方分権）担当課長

大阪府より有識者ヒアリング・勉強会を踏まえたSDGs推進のポイント等を説明
（市町村からの意見）

- ・今後総合計画に盛り込んでいくことを検討しているところ。未来都市に応募しようと思うが今から間に合うのか？
- ・総合計画ではなく、各事業のマッピング的なことができないか検討しているところ。
- ・新聞報道等からSDGsの世間での盛り上がりを感じるが、行政として何から手を付けてよいか悩んでいる。

府民向けの啓発活動

- 展示会「SDGsってなんやろ」於 大阪府立中之島図書館（7/9～8/18）
 （1970万博／2025万博誘致の展示会と同時開催）
 最終日には、大学生や高校生が考えたSDGsの取組みを披露する学生発表会を開催

SDGsってなんやろ?
 持続可能な開発目標 (SDGs紹介冊)

～SDGsから見る世界の子どもたちの暮らし～

入場無料

OSAKA-KANSAI JAPAN EXPO 2025
 World Expo 2025 Candidate

SDGs（持続可能な開発目標）とは、2016年に国連で決められた、日本を含むすべての世界が取り組む17個の目標で、2030年達成を目指しています。その中でも「教育」「健康」など、私たちの生活にも身近な目標にフォーカスして、アジアやアフリカなどの世界の子どもたちの暮らしを紹介すると共に「SDGsってなんやろ?」にお答えします。この夏休み、SDGsをとらえて、家族で世界について考えてみませんか?

日程 7月9日(月)～8月18日(土)
時間 月～金 9:00～20:00
 土 9:00～17:00
場所 中之島図書館 本館3階 レンタルスペース2

私が考える万博絵画展

小学生のみなさんに万博誘致をきっかけに「こんな未来になったらいいな」という夢や希望を自由に描いてもらいました。

メインテーマ **私が考える未来の社会**

1-1 未来の社会 (1歳児) 未来の社会 (1歳児)
 未来の社会 (1歳児)
 未来の社会 (1歳児)

1-2 未来の社会 (2歳児) 未来の社会 (2歳児)
 未来の社会 (2歳児)
 未来の社会 (2歳児)

1-3 未来の社会 (3歳児) 未来の社会 (3歳児)
 未来の社会 (3歳児)
 未来の社会 (3歳児)

受賞作品24点と大阪市内の小学校から応募のあった全作品248点を展示予定です。



○「大阪府SDGsスペシャルマッチ」の開催 (SDGs啓発活動の一環として、包括連携協定を締結しているF C大阪と連携)

■開催実績

「大阪府SDGsスペシャルマッチ おおさかこどもデー」(2018 7/29) 於：J-GREEN堺メインフィールド
SDGsの「1.貧困」や「4.教育」に関連する全ての子どもたちをテーマに開催。

「大阪府SDGs・健活10(ケンカツ テン) スペシャルマッチデー」(2018 9/2) 於：キンチョウスタジアム
府民の健康づくりの機運醸成を図るためのキャッチフレーズ「健活10(※)」と、SDGsの1つである「3.健康」をテーマに開催。 ※健活10：府民の皆さんに取り組んでいただきたい10の健康づくり活動

「大阪府SDGs・地球環境スペシャルマッチデー」(2018 11/18) 於：ヤンマースタジアム
「7.エネルギー」、「13.気候変動」、「14.海洋資源」、「15.陸上資源」など、特に環境分野をテーマに開催。

「2019 大阪府SDGs オープニングデー」(2019 3/17) 於：J-GREEN堺メインフィールド
2019年度の開幕戦として、「ゴール17.パートナーシップ」をテーマに開催。



- 「大阪大学とあそぼう」におけるSDGsブースの出展 於ららぽーとEXPOCITY（11/17）
SDGs啓発活動の一環として、包括連携協定を締結している大阪大学と連携し「まなぼう！SDGs」ブースを出展し、親子連れをターゲットに啓発活動を実施



各部局やステークホルダーの開催するイベント等において、パネル展示やブース出展等による啓発活動を実施。

■ 開催実績

- ・2018コープフェスタin堺（平成30年5月）
- ・ロハスフェスタ（平成30年5月）
- ・大阪府石綿飛散防止対策セミナー（平成30年6月）
- ・泉大津フェニックス・2018年夏の音楽イベント（平成30年8、9月）
- ・えほんのひろば（平成30年9月、11月）
- ・大阪都市緑化フェア2018in万博（平成30年9月）
- ・サイクルイベント（泉州サイクルルートと紀の川自転車道との広域連携に向けた社会実験）（平成30年9月）
- ・ワールドロボットサミット（平成30年10月）
- ・はるな愛講演会「一人ひとり個性があって、ええねんで！」（平成30年10月、平成31年3月）
- ・咲州子どもフェスタ（平成30年11月）
- ・第16回魚庭（なにわ）の海づくり大会（平成30年11月）
- ・事業者向け温暖化「適応」セミナー「『適応』とSDGsはビジネストレンド！」（平成30年11月）
- ・環農水研シンポジウム（平成30年11月）
- ・人権週間（ピースおおさか、中央図書館）（平成30年12月）
- ・ららぽーと和泉におけるパネル展示（体力測定会）（平成31年2月）
- ・ホワイトリボンランイベント（平成31年3月）
- ・防犯ブザー寄贈式並びに感謝状贈呈式（平成31年3月）
- ・大阪府安全なまちづくり推進会議幹事会（平成31年3月）
- ・大和川・石川クリーン作戦（平成31年3月）
- ・ABC万博たこやきマラソン2019（平成31年3月） 等

報道提供等の機会を活用し、SDGsの啓発を実施。

■実績

○報道提供資料、チラシ等に関連するSDGsのゴールを記載

- ・スポーツ振興関連事業（体力測定会 等）
- ・人権啓発関連事業（「第37回人権啓発詩・読書感想文入選作品表彰式 等）
- ・消費生活関連事業（消費者フェア、消費のサポーター育成講座 等）
- ・男女共同参画関連事業（「OSAKA女性活躍推進 ドーンdeキラリフェスティバル2018」、「パープルリボンキャンペーン」等）
- ・万博記念公園関連事業（「ひまわりフェスタ」、「イルミナイト万博」、「コスモスフェスタ」 等）
- ・環境関連事業（「食品ロス削減キャンペーン」、「地球温暖化防止月間」 等）

※その他多数あり

○府民向けの啓発冊子、リーフレット等へのSDGsの掲載

- ・食品ロス削減啓発「みんなで減らそう食品ロス」（平成30年3月）
- ・海洋プラスチックごみ対策啓発チラシ「プラスチックごみから海を守ろう！」（平成30年10月）
- ・若者向けリーフレット「あまーい誘いにご用心！」（平成30年12月）
- ・大阪府・大阪市 生活情報誌「くらしすと」2/1発行vol.93（平成31年2月）
- ・治安対策通信（平成31年2月）
- ・アドプトルールブック（平成31年3月）
- ・「淀川の魅力ある景観づくりに向けて」（平成31年3月）
- ・「グリーンインフラを活かしたまちづくり事例集」（平成31年3月）
- ・SDGs啓発物品を障がい者就労施設等に発注（平成31年3月）

等

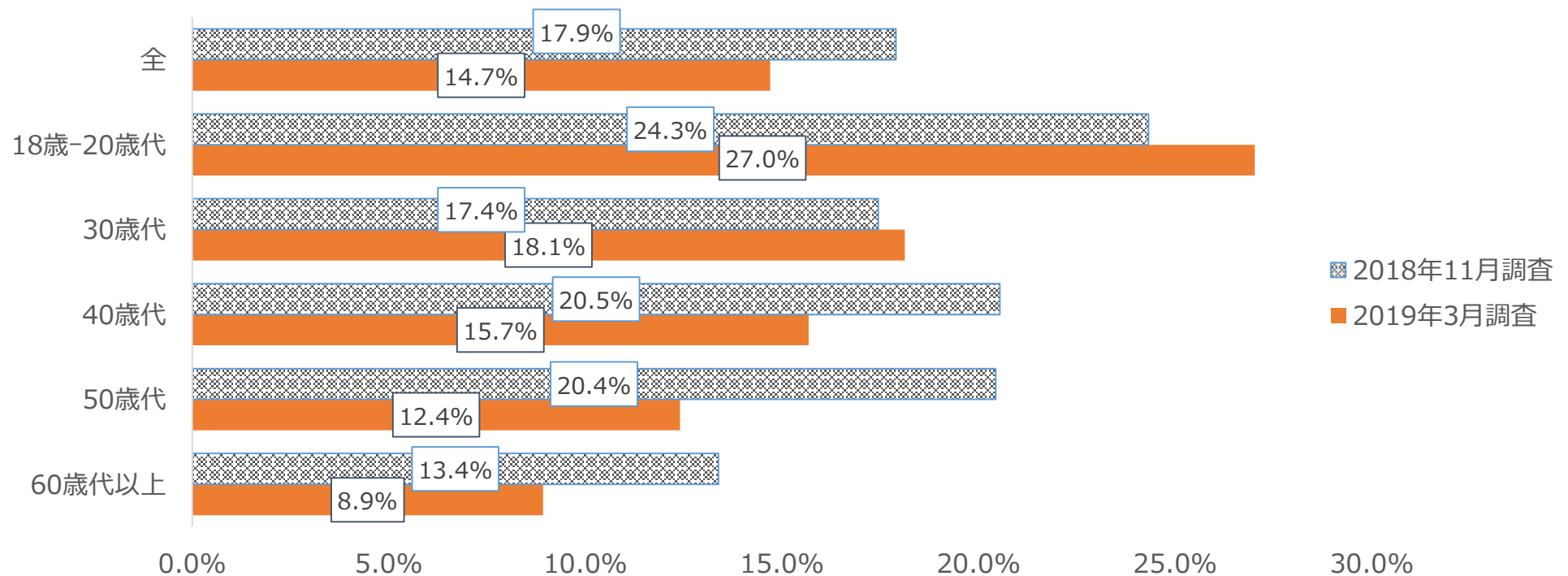
府民を対象にSDGsの認知度調査を大阪Qネットを活用して実施
 (対象者条件：18歳以上の男女、サンプル数：1,000名)

◆府民認知度調査結果

(「SDGsを知っていた」、「SDGsという言葉は聞いたことがあった、又はロゴを見たことがあった」と回答した人の割合)

○第1回調査 (平成30年11月) **17.9%**

○第2回調査 (平成31年3月) **14.7%**



2. 部局の主体的取組み

◆ 部局の主体的取組み

〈SDGsを計画等に反映〉

- ・『「いのち輝く未来社会」をめざすビジョン』の策定（平成30年4月）【政策企画部】
 - ・「大阪21世紀の新環境総合計画」の改定（平成30年6月）【環境農林水産部】
 - ・「大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改定（平成30年9月）【政策企画部】
- ※その他、各種報道提供や計画にSDGsを反映した事例

〈SDGs関連事業〉

- ・企業・大学との包括連携協定締結時にSDGsの観点を反映（平成30年4月～）【財務部】
- ・ATCグリーンエコプラザと連携した「SDGsビジネス研究会」の設置（平成30年10月）【商工労働部】
- ・大阪市と共同での「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」（平成31年1月）【環境農林水産部】

〈セミナー等によるSDGsの啓発〉

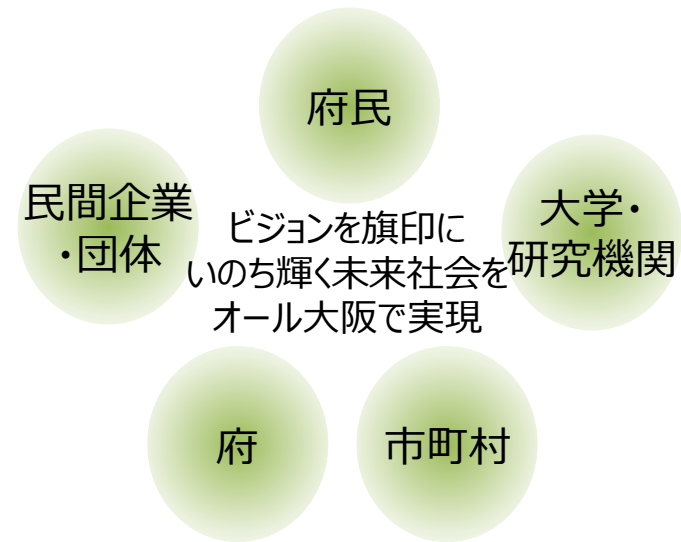
- ・中小企業向けセミナーの開催（平成30年4月～）【商工労働部】
- ・「大阪府 SDGsスペシャルマッチ おおさかこどもデー」（再掲）（平成30年7月）【財務部・福祉部】
- ・「大阪府 SDGs・健活10スペシャルマッチデー」（再掲）（平成30年9月）【健康医療部】
- ・「大阪府 SDGs・地球環境スペシャルマッチデー」（再掲）（平成30年11月）【環境農林水産部】 等

各部局でのSDGsの取組みは進みつつあるが、セミナーやイベントにおける啓発や、計画へのマッピングにとどまっており、更に何をすればSDGsの取組みとなるか各部局ともに悩んでいる。

府、住民に身近なサービスを担う市町村、産業振興等を担う民間企業・団体、高い専門性と知見を有する大学・研究機関、府民一人ひとりが共通の目標に向かって、取組みの強化を進めて行く指針（アクションプラン）となるもの。

2025年万博の
インパクトを
最大限活かして、
オール大阪で
取組みを進める

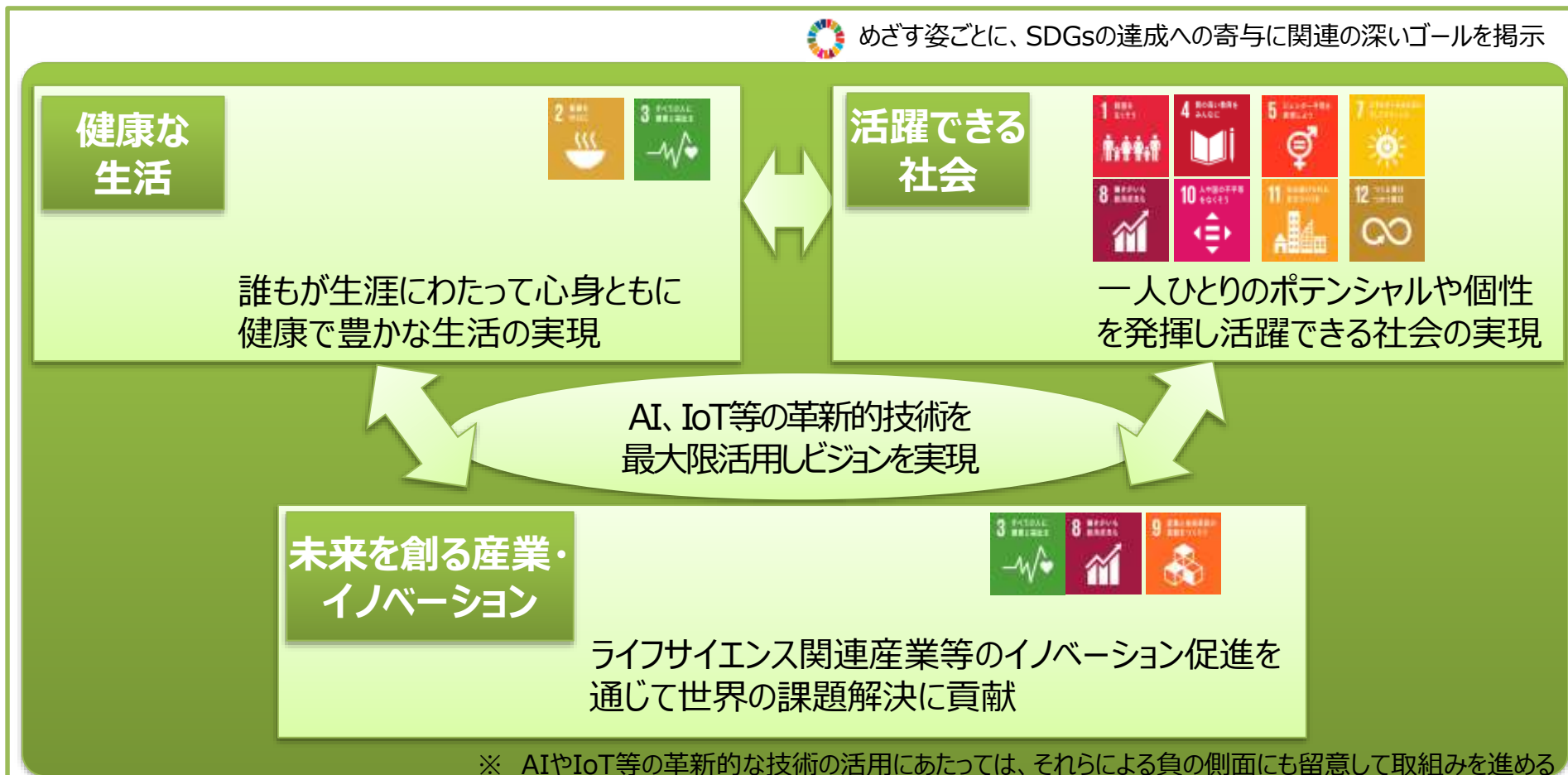
いきいきと
長く活躍できる
「10歳若返り」
を実現



【目標】

- ・「健康」を重点ターゲットに**健康寿命の延伸**。
- ・地域の健康づくり活動に加え、革新技術を最大限活用し、さらに2025年万博のインパクトを活かして、**いきいきと長く活躍できる「10歳若返り」**を目標に掲げる。

SDGsを計画等に反映 <「いのち輝く未来社会」をめざすビジョンの策定②(平成30年3月) >



大阪の行政、民間企業・団体、大学・研究機関、そして府民が一丸となって、規制緩和等の国の支援も最大限活用しながら、その実現に取り組んでいく。

さらに、3つの分野について、相互に連携させ総合的に取り組むことで、実現への効果を高めていく。

SDGsを計画等に反映（大阪21世紀の新環境総合計画の改定①（平成30年7月））

大阪21世紀の新環境総合計画

- 「大阪21世紀の新環境総合計画」は、府域における豊かな環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境基本条例に基づいて策定。
- 持続可能な環境・経済・社会の実現**に向けた取組みを推進。

SDGsの理念と一致

大阪21世紀の新環境総合計画の改定（H30.7）

◆改定の概要

現在実施している府の環境施策とSDGsとの関係性について今回新たに整理。

◆改定目的

各施策事業がSDGsのどのような目標や成果（アウトカム）に結びつくか、どのような国際的な課題の解決に寄与するかを明らかにする。

◆期待される効果

- ・行政側の意識改革
- ・SDGsに対する府民理解促進



※「府民」とは大阪府に住む人だけでなく大阪府に関わる全ての人を指す。

目指すべき将来像
※府民がつくる暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市

分野		関連するSDGs
I 府民の参加・行動		
II-1 低炭素・省エネルギー社の構築		
II-2 資源循環型社会の構築		
II-3 全てのいのちが共生する社会の構築		
II-4 健康で安心して暮らせる社会の構築	良好な大気環境を確保するために	
	良好な水環境を確保するために	
	化学物質のリスク管理を推進するために	
III 魅力と活力ある快適な地域づくりの推進		

SDGsを計画等に反映（大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定（平成30年9月））

- 大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略は、人口減少・超高齢社会が及ぼす影響・課題に的確に対応するとともに、東京への一極集中の解消、若い世代の就職・結婚・出産・子育ての希望の実現等をめざし、2016年3月に策定した直近5年間の戦略です。
 - 2017年12月、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略（2017改訂版）」において、初めてSDGs達成に向けた観点が入り入れられ、本年6月には「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」において、SDGsの主流化を図り、経済、社会、環境の統合的向上等の要素を最大限反映することとされました。
- また、大阪府では、本年4月に知事を本部長とする「大阪府SDGs推進本部」を設置し、全庁一丸となってSDGsの推進を図り、「SDGs先進都市」をめざしていくこととしています。
- これらの状況を踏まえて、「大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、基本目標ごとにSDGsとの関連性を整理するなどの改訂を行いました。

総合戦略の方向性	関連するSDGsの17のゴール
I) 若者が活躍でき、子育て安心の都市「大阪」の実現	
①若い世代の就職・結婚・出産・子育ての希望を実現する	3, 5, 8
②次代の「大阪」を担う人をつくる	1, 3, 4, 16
II) 人口減少・超高齢社会でも持続可能な地域づくり	
③誰もが健康でいきいきと活躍できる「まち」をつくる	3, 4, 8, 10
④安全・安心な地域をつくる	3, 7, 9, 11, 13, 16
III) 東西二極の一極としての社会経済構造の構築	
⑤都市としての経済機能を強化する	2, 8, 9, 11
⑥定住魅力・都市魅力を強化する	8, 11

SDGsを計画等に反映（その他の計画等）

計画等名称	概要
大阪府地域防災計画	理念の反映
新・大阪府地震防災アクションプラン	施策の関連ゴールを整理
大阪府ユニバーサルデザイン推進指針	理念の反映
大阪府営公園マスタープラン	施策の関連ゴールを整理
新農林水産業振興ビジョン「食とみどりの取り組み方向」	施策の関連ゴールを整理
第4期大阪府地域福祉支援計画	理念の反映
第4期大阪府ホームレスの自立の支援等に関する実施計画	理念の反映
少子化対策基本指針	理念の反映
大阪府自転車通行空間10か年整備計画	理念の反映
住まうビジョン・大阪	施策の関連ゴールを整理
空家総合戦略・大阪2019	施策の関連ゴールを整理
住宅建築物耐震10ヶ年戦略・大阪	理念の反映
大阪府バリアフリー基本構想等作成促進指針	理念の反映
建設工事従事者の安全及び健康の確保に関する大阪府計画	施策の関連ゴールを整理

- 平成30年10月、おおさかATCグリーンエコプラザ実行委員会とともに、会員制の「SDGsビジネス研究会」を設置。
- 会員企業に「ビジネス創出機能」、「プロモーション機能」、「情報提供機能」を提供し、SDGsをテーマとしたビジネス創出をめざす。

■SDGsビジネス研究会の概要

(1) ビジネス創出機能

○SDGs関連セミナー

最新の業界動向や企業の取組み事例等の紹介

○ビジネス創出分科会 ※大阪大学共創機構共催

SDGsをテーマとした新たなビジネス創出のため、新たなビジネスアイデアを生み出すプロセスや、ビジネスアイデアのブラッシュアップのポイント、今後のアクション等についてワークショップ形式で実施。また、SDGsビジネスの技術的課題と大学シーズとのマッチング等を予定。

○CSR分科会

CSR(*1)やESG(*2)について学び、自社の取組みへの展開をめざす。

(2) プロモーション機能

ATCエコプラザにおいて、SDGs特設ブース出展：ビジネスマッチングに向けたPRブースの設置

(3) 情報提供機能

エコプラザホームページにて、SDGs専用ウェブページを構築し、会員メンバー紹介ページを制作予定

(*1)CSR(corporate social responsibility):企業の社会的責任のことで、企業が倫理的観点から事業活動を通じて、自主的に社会に貢献する責任のこと。

(*2)ESG:環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取ったもので、企業の長期的な成長のためには、ESGが示す3つの観点が必要という考え方。

SDGs関連事業 <企業との包括連携協定締結時にSDGsの観点を反映（平成30年4月～）>

- 公民戦略連携デスクでは、公民連携を通じてSDGsの取組みを推進する旨を、ポスターを通じて発信。
- 平成31年3月末現在、49社4大学と包括連携協定を締結。各社・大学との多分野にわたる連携の一つ一つがSDGsの取組みに繋がるもの。
- 平成30年度からは、包括連携協定締結時のリリースにSDGsのロゴを記載し、10件の協定を締結。

【公民戦略連携デスクのポスター】



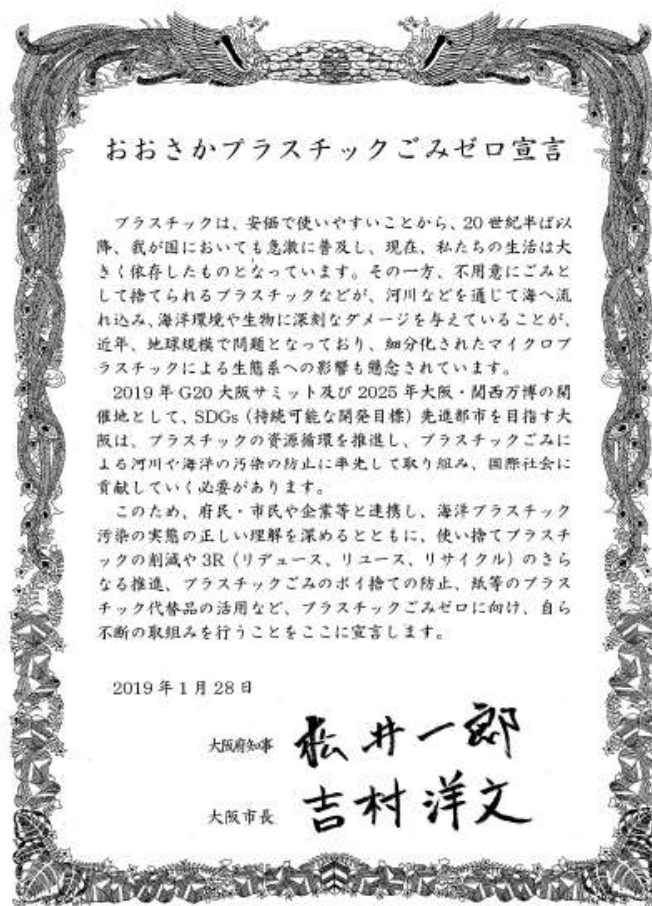
【包括連携協定の例】
立命館大学との連携項目
(平成30年4月11日締結)



本協定で連携・協働している分野別及び主な連携事例

連携分野	主な連携事例
地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ◎2025 年国際警察金の取組に向けた連携 <ul style="list-style-type: none"> ◎「Law Work」プロジェクトで、立命館大学が「Law Work」の一環として、2025 年国際警察金の取組に協力し、学生が国際警察官の体験学習を行う。また、2025 年国際警察金で実現する「国際警察官の体験学習」を通じて、学生が国際警察官としての経験を得る。 ◎国際警察官の体験学習 <ul style="list-style-type: none"> ◎国際警察官の体験学習 <ul style="list-style-type: none"> ◎立命館大学の学生が、国際警察官の体験学習を通じて、国際警察官としての経験を得る。 ◎立命館大学の学生が、国際警察官の体験学習を通じて、国際警察官としての経験を得る。
教育・研究・文化連携	<ul style="list-style-type: none"> ◎立命館大学へ自前研習会を開催し、国際警察官の一環として、国際警察官の体験学習を行う。 ◎立命館大学へ自前研習会を開催し、国際警察官の一環として、国際警察官の体験学習を行う。
子ども・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ◎福祉分野に関する研究活動の連携 <ul style="list-style-type: none"> ◎福祉分野に関する研究活動の連携 <ul style="list-style-type: none"> ◎福祉分野に関する研究活動の連携

○平成31年1月28日に、大阪府と大阪市は、平成31年G20大阪サミット及び2025年大阪・関西万博の開催地として、SDGs先進都市を目指し、使い捨てプラスチック削減のさらなる推進やプラスチックの資源循環の推進などを盛り込んだ「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を、共同で実施。



セミナー等によるSDGsの啓発 <中小企業向けセミナーの開催>

○商工労働部では、セミナー等の開催を通じて、SDGsビジネスの取組みを実施。

◆主な実績

「ビジネスチャンスとしてのSDGs入門セミナー」

<平成30年4/26>

SDGsを取り巻く状況や今後のビジネスチャンスについての解説、SDGsビジネスアワード大賞受賞企業の具体的な取組みの紹介。



「日経ソーシャルビジネスコンテストMeet UP大阪 (SDGs)」

<平成30年7/7>

日本経済新聞主催による「SDGsに定められた17の開発目標を意識したソーシャルビジネス」をテーマとしたビジネスコンテストの関連イベント。先進事例の企業等によるパネルディスカッションの他、参加者間でのワークショップを実施。



「SDGsビジネス研究会発足記念セミナー×関西SDGsキャラバン in大阪」

<平成30年8/29>

SDGsビジネス創出を目的とした「SDGsビジネス研究会」の発足にあたり、大学や民間企業からSDGsビジネス創出の実践的手法と具体的事例を紹介。



セミナー等によるSDGsの啓発 <大阪府SDGsスペシャルマッチの開催> (再掲)

○「大阪府SDGsスペシャルマッチ」の開催 (SDGs啓発活動の一環として、包括連携協定を締結しているF C大阪と連携)

■ 開催実績

「大阪府SDGsスペシャルマッチ おおさかこどもデー」(2018 7/29) 於：J-GREEN堺メインフィールド
SDGsの「1.貧困」や「4.教育」に関連する全ての子どもたちをテーマに開催。

「大阪府SDGs・健活10 (ケンカツ テン) スペシャルマッチデー」(2018 9/2) 於：キンチョウスタジアム
府民の健康づくりの機運醸成を図るためのキャッチフレーズ「健活10(※)」と、SDGsの1つである「3.健康」をテーマに開催。 ※健活10：府民の皆さんに取り組んでいただきたい10の健康づくり活動

「大阪府SDGs・地球環境スペシャルマッチデー」(2018 11/18) 於：ヤンマースタジアム
「7.エネルギー」、「13.気候変動」、「14.海洋資源」、「15.陸上資源」など、特に環境分野をテーマに開催。

「2019 大阪府SDGs オープニングデー」(2019 3/17) 於：J-GREEN堺メインフィールド
2019年度の開幕戦として、「ゴール17.パートナーシップ」をテーマに開催。



その他セミナーでのSDGsの啓発

- 環境教育担当指導主事会（平成30年7月）
- 人権教育担当指導主事会（平成30年11月）

講演会等への講師派遣

- 関西SDGsプラットフォームシンポジウムでの講演（平成30年3月）
- エネルギーイノベーションジャパン2018（平成30年8月）
- 平成30年度農業協同組合代表者会議（平成30年8月）
- YMCA大阪のボランティアリーダー研修での講演（平成30年10月）
- 公衆衛生を学ぶ大学生を対象とするSDGs勉強会（平成30年11月）
- 日本電気工業会大阪支部環境保全委員会での講演（平成30年12月）
- 修学旅行生向けの講演（広島県福山市立鷹取中学校）（平成30年12月） 等

セミナーへの参加や後援名義の承認等の協力

- セミナー「未来をつくるSDGsソーシャルビジネス」
<一般社団法人日本SDGs協会>（平成30年10月）
- SDGsってええやん！～みんなで目指そう持続可能な未来社会・おおさか～
<公益社団法人 関西経済連合会/一般財団法人大阪府みどり公社 大阪府地球温暖化防止活動推進センター>（平成30年6月）

3. ステークホルダーとの連携

各種連携枠組みへの参画（関西SDGsプラットフォームへの参加）

大阪府は、関西圏の多様なステークホルダーが参加する関西SDGsプラットフォームに、2017年12月の設立時より参加。

（自治体・政府関係機関等54団体、大学・研究機関30団体、企業・金融機関等324団体、NPO・NGO等107団体が参加 合計515団体）

目的

SDGsへの取組みが、関西の民間企業、市民社会・NPO/NGO、大学・研究機関、自治体・政府機関、すべての人々にとって、重要であることを広くアピールするとともに、各ステークホルダーの連携と協働により、関西において持続的社会的構築に向けた活動や高い社会的価値を生み出す経済活動を加速していくこと

主な活動内容

シンポジウム、ワークショップ等のイベント実施
Webサイトの設置、SNSでの情報発信、メディア向け発信 等

活動期間

2020年度までを集中取り組み期間として活動

会員

趣旨に賛同する関西圏の民間企業・経済団体、市民社会・NGO/NPO、大学・研究機関、自治体・政府機関

共同事務局

JICA関西、近畿経済産業局、関西広域連合本部事務局

各種連携枠組みへの参画（地方創生SDGs官民連携プラットフォームへの参加）

大阪府は、内閣府が設置した「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に平成30年8月の発足時から参画。

（関係省庁12団体、自治体227団体、民間団体298団体が参加 合計537団体）

プラットフォームの役割

自治体におけるSDGsの達成に向けた取組は、地方創生の実現に資するものであり、本プラットフォームは、SDGsを共通言語として、課題解決に取り組む官民の連携創出を支援することを目的として設立する。

① マッチング支援

研究会での情報交換、課題解決
コミュニティの形成

② 分科会開催

会員提案による分科会設置。議
論の深化とプロジェクト化

③ 普及促進活動

会員が開催するセミナー等への
後援名義発出等



SDGsの達成と持続可能なまちづくり（経済・社会・環境）による
地方創生の実現 官民連携による先駆的取組（プロジェクト）の創出

4. 部局ヒアリング

◆部局ヒアリング概要

- 勉強会に出席した担当以外の、各グループへの理解を図るのが困難。
- 関係団体、事業者、府民の認知度を高め、行政の一人よがりにならないように工夫する必要。
- マッピング（関連するSDGsのゴールとの整理）の次の段階までには至っていない。
- 具体的な取組み事例があれば参考にしたいが、他府県でも事例が何もない中で、何をしていけばよいのかが見えてこない。



- 積極的な部局に加え、取組みの少ない部局の取組みの推進
- 域内での事例発掘や連携機会の創出

5. 市町村へのはたらきかけ

◆市町村へのはたらきかけ概要

<主な取り組み>

- 市町村ブロック会議での説明（8回）
- 個別市町村への働きかけ（3市）
 - ・大東市：総合計画審議会で、SDGsの重要性について進言。
 - ・四條畷市：関心のある担当者に個別相談。
 - ・阪南市：市長の関心が高く、担当者含めて個別相談。

【市町村からの主な意見】

- すぐに総合計画等に反映させるべきと考えるが、上司の理解が足りていない。部局間で温度差がある。
- SDGsの理念は理解できるが、推進するにあたって、先進的自治体の取り組み事例等がない中、何をすればよいかわからない。
- 民間企業等のステークホルダーと連携していくには、どのように進めていけばよいか、知見がない。

域内での事例発掘や連携機会の創出
市町村等ステークホルダーの取り組みの推進

市町村の取り組み状況一覧

	SDGs 未来都市	関西SDGs PF	地方創生SDGs 官民連携PF
大阪市		○	○
堺市	○	○	○
岸和田市			
豊中市			○
池田市			
吹田市			○
泉大津市			○
高槻市			
貝塚市			
守口市			
枚方市			○
茨木市			
八尾市			
泉佐野市			
富田林市			
寝屋川市			
河内長野市			
松原市			
大東市			
和泉市			

	SDGs 未来都市	関西SDGs PF	地方創生SDGs 官民連携PF
箕面市			
柏原市			
羽曳野市			
門真市			○
摂津市			
高石市			
藤井寺市			
東大阪市			
泉南市			
四條畷市			
交野市			
大阪狭山市			
阪南市		○	
島本町			
豊能町			
能勢町			
忠岡町			
熊取町			
田尻町			
岬町			
太子町			
河南町			
千早赤阪村			

市町村ブロック会議の概要（再掲）

<概要>

○SDGsを市町村にも普及するため、平成30年7月より市町村ブロック会議に参加し、SDGsの概要や国の動向、大阪府の取組み状況を説明。

（合計8回参加（4ブロック×2）、42市町村の企画担当者向けに説明）

<市町村からの主な意見>

○SDGsの理念は理解できる。

○すぐに総合計画等に反映させるべきと考えるが、上司の理解が足りていない。部局間での温度差もある。

○他府県の先進的自治体の取組み事例等がないと何をすればよいかわからない。

○民間企業等のステークホルダーと連携していくには、どのように進めていけばよいかわからない。

○新聞報道等からSDGsの世間での盛り上がりを感じるが、行政として何かから手を付けてよいか悩んでいる

6. 先進自治体ヒアリング

◆先進自治体ヒアリング概要

<ヒアリング先> ※近畿の先進自治体として、有識者からの推薦

【滋賀県】平成29年から全国に先駆けてSDGsの取組みを開始

【堺市】SDGs未来都市

【近江八幡市】平成29年から全国に先駆けてSDGsの取組みを開始

【尼崎市】平成29年から全国に先駆けてSDGsの取組みを開始

<先進自治体の取組み概要>

- ・どの自治体もこれまでの環境分野での取組みをきっかけに開始。
- ・主な取組みは、総合計画をはじめとする既存計画へのマッピング。

<ヒアリング概要>

- ・SDGsのためではなく、よりよい行政のためにSDGsを活用していくという視点が重要。
- ・SDGsの持つ価値は、地域の小さな、意義深い取組みにスポットライトを当てること。

7. 有識者ヒアリング

◆有識者ヒアリング概要①

- SDGsは、ゴールに沿った自治体の現状を把握することで、強みを認識してより伸長したり、弱点を把握して克服するなどの意義がある。SDGsの17個のゴールを全て網羅する必要はなく、強みを伸ばす、弱点を克服するという観点で、ターゲットを絞った取組みを進めていくことが重要。教育を入れるべきという声は必ず出てくる。
- SDGsをどのようにローカライズして、自治体ごとに当てはめるかは非常に難しい問題。念押ししたいのは、SDGsの名のもと、全自治体を同じ指標で画一的に評価して順位づけしてしまうことはしてほしくない。SDGsは、あくまで、住んでいる地域を良くするためのツールであることを念頭に置いておいてほしい。
- 大阪府は、経済会や民間と連携した取組みが多く、そこが大きなアドバンテージ。例えば、SDGsに関する民間からの事業提案を受け付ける窓口を設置するなどのアイデアがあるか。また、SDGs未来都市に選ばれた自治体を見ても、自治体だけがSDGsをやっているところが大半で、SDGsの中核を占める「パートナーシップ」がうまく進んでいるように思えない。そういった意味で、もし市町村や経済界を巻き込んだ指針が策定できれば、非常に好事例になると思う。
- 大阪府であれば、やはり外せない視点は万博だと思う。他の自治体はそうした拠り所がないので、ぜひ強みとして活用していくべきだと思う。そうした理念、大きな方針を設定したうえで、KPI等にSDGsの指標を活用していくのが良いのでは。
- SDGsを踏まえた新規事業は、全国どこにもないのが現状。
- SDGsは型にはまったやり方ではなく、個々の自治体の特性に応じて進めるべき。SDGs未来都市へ応募し、選定されることは、その1つにすぎない。
- 子ども向けの啓発活動としてバッジを活用している話も、SDGsが未来志向である点を踏まえると、非常に本質を突いた良い取り組みだと思っているし、行く先々で話をさせてもらっている。

◆有識者ヒアリング概要②

- 行政の動向をかなり先行するかたちで、企業の間でかなり盛り上がってきている。他方、大企業と中堅・中小企業の間でかなりギャップがあり、気が付いたら、SDGsをやっていない地元企業が取引を打ち切られる、といった事態が発生しかねず（実際欧米で生じている）このあたりは、行政が果たすべき役割があるかもしれない。
- SDGsの真の狙いは、価値の対立を防ぐこと、平和を実現すること。
もっと平たい言い方をすると、縦割りの排除。
- SDGsの価値は、主に以下の2点あると思っている。
 - ①（これまで対立もあった）社会をより良くする複数の価値を並列していること。
 - ②「持続可能性」という言葉にあるように、時間軸の概念を取り入れていること。
- ①に基づいて、既存・新規の施策にスタンプを押す話を否定はしないが、事業仕訳となんら変わらず、SDGsという「器」を活用する意義が無い。如何に施策を尖らせていくかは、②の発想が必要。単年度予算の行政主体が、中長期的な視点で事業を実施することが難しいことは承知しているが、将来的な理想像として持つておくことも必要ではないか。
- ①については先ほども話した、「縦割りの解消」という側面に加え、自分たちのやっている個々の事業の社会全体での位置づけを認識し、実は大きな波及効果を持っていることを認識する意義がある。例えば、道を作る話は、単なるインフラ整備に留まらず、その先にいる子どもたちのために学校ができたり、逆に環境に負荷をかける、といった話。
- 指標化は、指標の設定次第で何とでも言えるのが実情だと思っている。

◆有識者ヒアリング概要③

○自治体は、2030年に向けた取組みの準備として、当面、①水平的展開、②垂直的展開のための仕込みの期間にあたるように思う。

①水平的展開

○庁内の職員、市町村職員、一般府民向けの普及啓発・理解促進等、SDGsを横に広げる取組み。過去、自分が講演したり、参加した様々な研修での経験を踏まえると、ワークショップ型の研修が、より効果的だと思う。順序としては、府の企画担当が、各部局や市町村にそもそものSDGsについて、座学形式の勉強会を開催した後、より現場に近い人たちに自分事に思ってもらえるよう、各部局や市町村が主体的にワークショップ型のイベントなどを開くのが理想か。

②垂直的展開

○各部局がワークショップ（SDGsマッピング・実施5原則チェック等）などを通じて、自分たちの分野における取組み目標や施策をSDGsの観点も踏まえて策定するもので、SDGsを縦に深める取組み。なお、SDGsは、主体的に取り組むことが重要な柱。上から指標を決めて達成を義務化するようなことになるのは少し違和感。

有識者・ステークホルダー一覧（敬称略）

<個別ヒアリング>

- ・川久保 俊（法政大学 デザイン工学部建築学科 准教授）
- ・蟹江 憲史（慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授）
- ・岡崎 裕（和歌山大学 教育学部 教授）
- ・岡島 克樹（大阪大谷大学 人間社会学部 教授）

<セミナー等での聴講>

- ・村上 周三（東京大学名誉教授）
- ・北橋 健治（北九州市長）
- ・井上 隆（経団連常務理事）
- ・蟹江 憲史（慶應大学大学院教授）

<その他ステークホルダーヒアリング>

- ・JICA 関西
- ・SMB C 大阪支店

8. SDGs評価指標

日経グローバルは、持続可能性（サステナビリティ）の観点から日経リサーチを通じて**全国815市区を対象にインターネット上で調査**を実施。**国の公表データに加えて、調査により得た各指標を得点化し、「経済」「社会」「環境」のバランスが取れた発展に各市区がどれだけつなげているかを評価。**

SDGs先進度ランキングの評価方法

- ・設問ごとの得点を単純に合計してランキングを算出
- ・分野別では経済14点、社会50点、環境36点の合計100点
- ・公表データが40点、グローバル独自調査が60点となるよう調整

〔経済（7指標）・・・公表データから7指標〕

（公表）一人当たり課税所得、一人当たり製造品出荷額、実質公債費比率 等

〔社会（36指標）・・・公表データから19指標、調査から17指標〕

（公表）過去5年間の人口増減率、女性管理職比率、立地適正化計画 等

（独自）障がい者雇用率、災害時のタイムライン、コミュニティーバスの有無 等

〔環境（31指標）・・・公表データから5指標、調査から26指標〕

（公表）再生エネの市町村別導入容量、一人当たりごみ排出量 等

（独自）環境基本計画策定の有無、省エネ施設・設備の助成制度 等

【全国総合ランキング（1位から3位）】

1位：京都市【経済341位・社会7位・環境2位】

（社会）人と公共交通優先の社会、京都市政出前トークにSDGsの目標紐付け
（環境）地球温暖化対策、ごみ減量への早期取組み

2位：北九州市【経済590位・社会1位・環境9位】

（社会）審議会女性委員53.2%、地域課題解決のため「SDGsクラブ」設置
（環境）地域エネルギー拠点化の推進、環境国際協力・ビジネスの推進

3位：宇都宮市【経済71位・社会8位・環境29位】

（社会）22年3月開業目指しLRT整備しネットワーク型コンパクトシティーめざす。

大阪府内の市のランキング（全国100位以内）

9位：堺市	38位：茨木市
48位：高槻市	69位：寝屋川市
76位：大阪市	85位：枚方市
88位：八尾市	